

科目名称：	美術文化研究	
担当者名：	大場新之助、堀一浩	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>美術を理解するために歴史を学ぶことは重要である。古代から現代までの作品を海外の美術館で間近に鑑賞することは得がたい体験である。本演習では、異文化への探求を深め、多種多様な価値観に触れ、審美眼を磨くことを目的とする。</p> <p>準備学習として、訪問国の文化や歴史、作品解説、撮影やスケッチのポイントについて学ぶ。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>現地観光、美術館見学を通してスケッチや写真撮影などの取材を行う。</p> <p>帰国後スケッチやレポートを提出し、卒業制作展で展示発表する。</p>		

美術学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、美術を通して様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、美術を通して、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	美術の分野において基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用し表現していくことができる。	○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
美術DP(1)					0
美術DP(2)					0
美術DP(3)			90	10	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考
履修人数、感染症の状況等により、海外での研修が難しい場合は、国内研修に切り替わる可能性があります。

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
事前調査	渡航先の文化や歴史について積極的に調べ、十分に準備され、学ぶべき目的を持って臨んでいる。	渡航先の文化や歴史について積極的に調べ、十分に準備できている。	渡航先の文化や歴史についての調査や準備がある程度できている。	渡航先の文化や歴史についての調査や準備が十分にできていない。
スケッチ	題材となる土地を五感で感じ、構図や色感を意識して魅力的なスケッチが多く描けている。	題材となる土地を五感で感じ、構図や色感を意識したスケッチが描けている。	構図や色感をある程度意識したスケッチが描けている。	構図や色感を意識したスケッチが十分に描けていない。
レポート	現地での生き生きとしたエピソードが多く描かれており、読む人を楽しませる工夫がなされている。	現地での生き生きとしたエピソードが描かれている。	現地でのエピソードがある程度描かれている。	現地でのエピソードが十分に描かれていない。
遊学心	渡航先で見聞を広げ様々な考え方や文化を学び、多角的な思考を身につけ、将来に生かすことができる。	渡航先で見聞を広げ様々な考え方や文化を学び、多角的な思考を身につけた。	渡航先で見聞を広げ様々な考え方や文化を学んだ。	渡航先で様々な考え方や文化を学ぶ意識が薄い。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 訪問国(欧州の予定)の文化・歴史について解説	自主的に訪問地域を事前に調査する	30分
第2回 訪問国(欧州の予定)の美術館の作品解説	自主的に訪問地域を事前に調査する	30分
第3回 写真撮影・スケッチ・レポートについてのポイント解説	自主的に訪問地域を事前に調査する	30分
第4回 現地で注意すること、学ぶポイントと解説	自主的な事前調査、各グループでの旅程の計画	30分
第5回 旅行行程の最終確認(パスポート、現地通貨換金等の説明)	自主的な事前調査、各グループでの旅程の計画	30分
第6回 研修旅行(出国)	現地の情報を収集し渡航準備をする	60分
第7回 研修旅行(都市1)現地観光、美術館見学	スケッチ・撮影など自主的に現地取材をする	60分
第8回 研修旅行(都市1)現地観光、美術館見学	スケッチ・撮影など自主的に現地取材をする	60分
第9回 研修旅行(都市1)自由行動	スケッチ・撮影など自主的に現地取材をする	60分
第10回 研修旅行(都市2)現地観光、美術館見学	スケッチ・撮影など自主的に現地取材をする	60分
第11回 研修旅行(都市2)現地観光、美術館見学	スケッチ・撮影など自主的に現地取材をする	60分
第12回 研修旅行(都市2)自由行動・スケッチ合評	スケッチ・撮影など自主的に現地取材をする	60分
第13回 研修旅行(帰国)	現地での取材を取りまとめ帰国準備をする	30分
第14回 スケッチ・レポート(旅日記)の提出	現地取材をもとにスケッチを仕上げ、レポートもまとめる。	480分
第15回 卒業制作展での展示発表(プレゼンテーション)	取材をもとに制作したスケッチやレポートを発表できるように展示準備をする。	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。事前に訪問先を自主的に調べ、興味を持って取り組むこと。また、事後にまとめるレポートは独自性をもった見応えのあるものを目指すこと。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。

絶対条件：スケッチ、レポートの提出、事前研修の出席

評価配分：成果物の良否90%（事前調査10%、スケッチ40%、レポート40%）、授業への積極的関与・遊学心10%

課題に対するフィードバック

現地でのスケッチ合評にて講評を行い、返却時に個別指導を行う。優秀なスケッチやレポートは卒業制作展で展示し、多くの人に渡航先の魅力を伝えるものとする。

教科書・参考書

図書の推薦や、研修についてのプリントを配付する。